

真成寺開創

500年を

迎えて

●【記念事業お稚児さん集まれ!】

真成寺が開創されて今年でちょうど500年の節目を迎えました。

本堂の入り口や、屋根の改修工事。境内の整備。そして、ペットのお墓と、永代供養墓【久遠廟（くおんびよう）】の建立。これらは開創500年記念事業の一環として執り行ってきました。

巷では「十周年記念」や「二十周年」あるいは「百周年」など多くの節目と記念日があると思いますが、真成寺は「開創五百周年」を迎えたわけです。一口に500年と言っても、これほどの節目は無いくらいに大きな節目を迎えているという感慨を抱くわけです。

これまでの500年。そしてこれからの500年に向けてのターニングポイントとなる一年となります。親先祖が繋いで下さった命のバトンをしっかり握りしめ、真成寺檀信徒の皆様と一緒に、歴史の証人としての使命と有り難さを感じるわけでございます。

さて、今年の十月二十八日（土）

にプレイベントの開催。十一月三日と四日の2日間にわたって記念イベントの開催を予定しています。中でも十一月四日の午後に開催する音楽法要では、身延山から万灯行列がお祝いに駆け付けてくれます。また万灯行列に合わせて稚児行列も賑々しく行う予定です。真成寺では現在、総勢100名を超える稚児達を募集しております。500年という記念すべき稚児行列です。この御縁を、御縁のある皆様と一緒に作っていきたいと意気込んでいます。詳細につきましては、真成寺にお気軽にお問い合わせ下さいれば幸いです。稚児行列に参加希望のお子様は、ドシドシお申し込みいただきますよう、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

●【無縁を有縁にする久遠廟】

さて、去る4月8日『花祭り（お釈迦様の誕生日）』に合わせて、『久遠廟』の入魂開眼式を無事に終えることができました。

開眼式当日の天気予報は「雨」という事でしたが、開眼式の最中は雲の切れ間から青空が顔を出し、暖かい日差しが私達に降り注いでくれた時には、思わず感涙いたしました。

当日の『開眼式』ならびに『花祭り』にご参詣頂きました檀信徒の皆様方、お疲れ様でございました。また、開眼式に先立ち、境内や久遠廟の清掃に勤

しんで下さった方々、本当にありがとうございます。お祝いのお供え物を頂戴した方々、本当に感謝申し上げます。

4月8日にお申し込みを開始した【久遠廟】ですが、既に数体の方々が納まりました。これから納骨させて頂きたいという声も多く聞かれます。そもそも【久遠廟】建立を志した動機には、檀信徒の切実な声がありました。

実際に久遠廟を契約した人達の理由として多いのは「子供がいない・子供が娘だけ」という声です。また「シングル女性の声も多く、承継者がいないことが問題となっていることが分か

ります。更に「夫や、夫の家の墓と別を希望・子供に頼れない、頼りたくない」など、「家墓（いえばか）から脱却したい」という価値観のほか、「再婚」や「離婚した女性」も少なくありません。しかし子々孫々での継承を前提とした家墓（個人墓）では、こうしたライフスタイルや価値観の多様化には対応できません。

厚生労働省の科学研究で平成十（1998）年に実施された「墓地に関する意識調査」によれば、墓地に関する社会問題として、「墓地の高騰」・「墓地の不足」・「墓地の承継者がいないこと」の回答率が高い結果となりました。このうち「墓地の高騰」や「墓地の不足」は大都市部でのみ顕著な問題ですが、「墓地の承継者がいないこと」は、都市規模に関係なく問題が顕在化

していることが指摘されています。つまり大都市部では、少子化や人口移動などで墓の承継者の確保が困難になっているのに対し、地方都市や郡部では、過疎化の中で承継者の確保が困難になっているのです。

将来的に家墓の承継がますます困難になっていくという構図は全国的な傾向のようです。「今の墓制では後継者のいない人達に、死後の行き先がない」という社会の変化と、切実な訴えを感じ取り、承継者の必要がない永代供養墓【久遠廟】の建立に踏み切ったというわけです。

また【久遠廟】の大きなテーマの1つが、『無縁（墓）』を無くすことにあります。誰一人として、独りで生まれ出た者はおられません。誰もが親先祖あつての自分の命を生きています。お墓とは、自分の命の源つまり親先祖に合掌をし、今ある自分の命に感謝の念を新たにするパワースポットといえます。お墓を疎かにして良いはずがありません。

ただ先述したように「承継者がいない」など様々な理由で、物理的にお参りが適わない檀信徒の存在があることも否めません。そこで、お墓参りができない方々に代わって、あるいはお墓参りしてくれる承継者がいないくても、そんな皆様が終の棲家として安心して納められるお墓。真成寺が永代にわたって供養と管理をさせ

て頂くお墓が【久遠廟】というわけです。永代供養とは文字通り、真成寺の住職が責任をもって永代にわたり、子々孫々までご先祖様を御供養することです。

●【お寺が地域の中核になる】

地域共同体の弱体化や、核家族化の進展、産業構造の変化などに伴う来世観の崩壊、価値観やライフスタイルの多様化…。社会の基本単位が個人となり、家族や血縁で、お墓や御供養を継承できなくなっている。今において、社会全体で支え合うことが必要となりました。お寺はその中核となるべきだと感じています。【久遠廟】も、その一端を担う一つの可能性を秘めていると思います。

どうということかと言うと、同じ墓に入る人達同士で親先祖を供養するというのは、まさしく死者と生者の「結縁」を作ることです。【久遠廟】には真成寺のお檀家さんのみならず、ご縁のあるご信者の皆様もおられます。ご信者さんはお檀家さんと違って、お寺への帰属意識があるわけではありません。しかし御納骨いただいたならば、少しでも日蓮宗や仏教に関心を持ってもらうための様々な工夫を凝らしたいと思っています。

そして檀信徒や【久遠廟】への納骨者だけではなく、地元の人達も気

軽に集えるお寺を作り上げたい。

【久遠廟】の構想は、建立することが最終目的ではありません。檀信徒の声や社会のニーズ（要求）に応えるお寺をつくるための足掛かりに繋げたいと思っています。

冬至に開催している『冬至水行祭・ほしまつり』には、全国各地から参加者が集う行事に成長しました。しかも参加者の過半数が、それまで真成寺や法華経・日蓮宗などの御縁が無かった方々です。当初は興味本位で水行に参加されたにもかかわらず、水行祭が終わった後に、「毎日お仏壇で手を合わせています」・「お風呂場で南無妙法蓮華経と唱えながら水を被って冬至に向けて精進しています」などの声が寄せられています。

同じ様に【久遠廟】が皆様の心の拠り所となり、心穏やかに素直な気持ちで集いなくなる場所、納骨者同士で互いに支え合うコミュニティの構築を目指します。

ライフスタイルや家族のあり方が多様化し、現代人が抱える問題は、お葬式や遺言、介護や死の看取り、そして自身の死の迎え方など多岐にわたります。これまでは家族や家が支えてきたこうした問題を、社会全体で支え合っていく事が肝要です。お寺に集う人達とそれを支える人達。【久遠廟】を開設運営することで終わりではなく、そこから始まる「結縁」を強固なものに

していくことが、大きな意味で【久遠廟】建立の意義があります。そしてその中核を担うのがお寺の役割です。親先祖を慕い、敬虔な気持ちを育む心の拠り所になれる事を切に祈っています。

合掌 副住職 谷川寛敬

久遠廟のパンフレット
出来ましたよ～！！

